



村上市平林 千眼寺晋山結制式 H27/6/13-14

## ○千眼寺晋山結制式円成

平成二十七年六月十三日(十四日、村上市平林・千眼寺では住職神田秀孝和尚(当寺二男)の晋山結制式を挙行、無事に一世一代の大行事が終了しました。併せて二十四世山本宗彦和尚の本葬儀を執行。秀孝は千眼寺二十五世の法灯を継承しました。随喜御寺院七十名、檀信徒も七十年ぶりのこの目出度い式典に大勢参加してお祝い致しました。当寺より総代四名が参加し祝意を表しました。今後益々の発展が期待される。



## 千眼寺の沿革

本尊 千手千眼観世音菩薩(秘仏)  
開基 平林城主 色部長昌公  
本寺 耕雲寺(村上市門前)

千眼寺は曹洞宗で山号を普光山という。開基は平林城主色部長昌である。もとは真言宗の寺院であったが、長昌の時代には衰微廃壊していた。長昌はこれを憂い、その再興を村上市門前耕雲寺十世大冲玄甫禅師に懇請した。禅師は長昌の居城近くに佳地を選んで堂宇を建て、天文元年(一五三二)に千眼寺を開創し開山となる。その後、千眼寺は色部家の菩提寺として栄え、三世の底寂玄徹和尚が有明(光浄寺)、金屋(大雄寺)、春木山(西法寺)、田中(福源寺)を建て、四世太政守陽和尚が桃川(東膳寺)、荒島(東岸寺)、五世甫庵祖譽和尚が福田(應菴寺)、六世明山守光和尚が鍛冶屋(金蔵寺)、と各地に次々と寺を建てられ開山となっている。(末寺は八ヶ寺を数える)

慶長三年に色部光長は上杉景勝の會津移封によって、米沢金山の城に移ったことから、色部家の菩提寺としての千眼寺も随従して窪田(米沢市)に移ったが、平林に残った建物はやはり千眼寺として堂宇を残し、現在に至っている。

昭和四十二年八月の未曾有の羽越大水害によって、享保四年(一七一九)に建てられた本堂(間口十二間半Ⅱ役二・一五メートル、奥行八間Ⅱ約十四・四メートル)は裏山からの土砂崩れにより崩壊した。その四年後(昭和四十六年)、二十四世住職山本宗彦和尚(平成二十五年十二月二十日遷化・世寿八十五歳)の切なる発願により、檀信徒の多大なるご寄付ご協力を仰ぎ現在の本堂が再建された。その落慶法要の際には、窪田の千眼寺から開基色部長昌公のお位牌を頂いている。本堂左手の小高い丘の上には、総樺造りで、村上の名匠山脇三作の手による彫刻を施した保呂羽堂がある。